

神戸アートビレッジセンター 演劇・ダンス事業

ダンスショーケース公演「ダンスの天地 vol.02」

ダンスの自明性を問ふ。

公募で選出された、新たなダンスの可能性を切り開く「ダンス作品」を一挙上演

神戸アートビレッジセンター [KAVC] (神戸市兵庫区、指定管理者：公益財団法人 神戸市民文化振興財団、館長：大谷煥) は、「ダンスの天地」実行委員会との共催事業として、2019年9月7日(土)、8日(日)の2日間、ダンスショーケース公演「ダンスの天地 vol.02」を開催いたします。

「ダンスの天地」は、ダンス作品と出演者へのインタビュー、公演批評によって「ダンス」の自明性を浮かび上がらせていく試みです。2018年から始まったダンスショーケース公演「ダンスの天地 vol.00/vol.01」を経て、今回第3回目の開催となりました。

公募により選出された8組の振付家・ダンサーは、関西圏ほか国内を活動拠点にしながら、海外へと活動を広げる若手実力派です。公演後には、アーカイブHPおよび批評集にて批評家による批評文を公開します。関西を拠点に活動する、竹田真里(ダンス批評)、岡元ひかる氏(ダンス研究)の両氏を迎え、批評という切り口からも「ダンス」の自明性を問うていきます。

公演/チケット情報

会場 | 神戸アートビレッジセンター 2F・KAVC ホール

日時 | 9月7日(土) 17:00~ Aプログラム

19:00~ Bプログラム

9月8日(日) 13:00~ Aプログラム

15:00~ Bプログラム

※ 受付開始は開演30分前、開場は開演20分前

※ 未就学児童入場不可

チケット料金 |

1プログラム券：前売 2300円 (当日 2500円)

(A・Bいずれかを鑑賞) 学生前売 1500円 (学生当日 1800円)

2プログラム券：前売 4000円 (当日 4500円)

(A・Bどちらも鑑賞)

チケット予約先 |

▶「ダンスの天地」実行委員会

Mail : dddd_2927@yahoo.co.jp

▶神戸アートビレッジセンター

Tel : 078-512-5500

Mail : stage@kavc.or.jp

Web : <https://www.kavc.or.jp/events/4750>

※公演当日に受付にてお支払い・お引き換え。

※ご予約は全て「当日精算」にて承ります。

※ 税込/全席自由

※ 学生料金は要学生証提示。2プログラム通して鑑賞の場合は2枚購入のこと。



会場・お問合せ：神戸アートビレッジセンター (指定管理者：公益財団法人 神戸市民文化振興財団) 担当 竹下・野澤
〒652-0811 神戸市兵庫区新開地 5-3-14 TEL 078-512-5500 FAX 078-512-5356

※取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。

A プログラム出演者



①宮脇有紀

「A/UN」

振付・出演 宮脇有紀

幼少時よりクラシックバレエを始める。16歳でオーストラリアにバレエ留学。帰国後、日本女子体育大学に入学。在学中、太田ゆかり、じゅんじゅん、上野天志の作品に出演。企業に就職後、国内ダンス留学@神戸6期に参加、自身の作品『Accord』を発表。修了後、ダンサーとして鈴木ユキオ、岩淵貞太の作品に出演。自身の創作活動では”パブリックスペースでのカラダの記憶と気づき”にフォーカスし、ソロ作品を発表している。



②Umishitagi(中西ちさと)

「1st GIG」

バンドリーダー 中西ちさと

バンドメンバー 中西ちさと 福井菜月 今村達紀 内田結花 川瀬亜衣 ほか

Umishitagiとは、ウミ下着のバンド編成版グループ。「バンドやるうぜ!」と呼びかけたダンサーで構成される。ウミ下着：中西ちさと（振付家）、福井菜月（ダンサー）による五感に訴える身体表現をモットーに掲げるダンスパフォーマンスグループ。日常や無機物、天災等様々な素材をユーモアを交えながら踊りに変えていく。解説付き公演やラジオ番組型公演が普段ダンスを観ない人にも楽しめると好評を博している。



③オームアムア（中屋敷南・中瀬俊介）

「白夜草」

振付・出演：中屋敷南

ドラマトゥルク・映像：中瀬俊介

音楽：角田寛生

中屋敷南：ダンサー・振付家。人間の感情、感覚、そこに内包された欲望の表出を、繊細で表情豊かな動きで表現する。横浜ダンスコレクション EX2015 最優秀新人賞受賞。

中瀬俊介：映像作家・ドラマトゥルク。広告映像やコンサート映像の演出を手がけながら、舞台創作に関わる。2014年、Performance Project デルトーカを発足。2017年よりDance Company Baobabに加入。



④敷地理

「 」※タイトル未定

演出・振付・音楽・出演：敷地理

出演：小松菜々子、村川菜々

人体彫刻におけるポージングの選定と舞踊における振付の類似点、またメディアとしての生身の身体への関心から留学先のベルリンでパフォーマンスを作り始める。あらゆるものが均質化し擬似化していく中での現実感の獲得と、上演空間を批判的に捉えることを目指し制作を行う。最近の主な活動に東京芸術祭 2018APAF、中之条ビエンナーレ 2019 など。東京藝術大学大学院在籍中。

B プログラム出演者



①DANCE PJ REVO(田村興一郎)

「MUTT」

振付・出演 / 田村興一郎

協力 / CND-Center national de la danse

振付作家・ダンスアーティスト。DANCE PJ REVO (NPO 法人 DANCE BOX アソシエイト・カンパニー) 主宰。京都、東京、韓国、フランス各地で作品制作を手掛けるなど、国内外で活動中。横浜ダンスコレクションにて奨励賞、最優秀新人賞、若手振付家のための在日フランス大使館賞、シビウ国際演劇祭賞受賞。また発達障害児童へのダンス指導など、様々な形でダンスシーンの活性化に向けて取り組んでいる。



②Arts For All(Alain Sinandja)

「WHY???'」

振付：Alain SINANDJA DAKONYEME

出演：MAYUMI、ニユミコ、伊達研人、Alain Sinandja

トーゴ出身。ECOLE DES SABLES にて GERMAINE ACOGNY に師事、コンテンポラリーと伝統的なアフリカンダンスを学ぶ。アフリカ、ヨーロッパを中心に数々のフェスティバルにて作品発表、出演。2017 年に来日。翌年、神戸新長田にてダンスフェスティバル「AFRICAN CONTEMPORARY NIGHT」を企画・主催。現在は神戸に拠点を置き、国内外にてダンサー振付家、講師として活動中。



③久保田舞

「 」※タイトル未定

振付：久保田舞

出演：河内優太郎 小林萌 久保田舞

1995 年生まれ。埼玉県立芸術総合高校にて舞台芸術を学んだのち大東文化大学に入学。モダンダンス部に所属し創作活動を本格的に始める。韓国芸術総合学校公演、シンガポール M1 CONTACT Contemporary Dance Festival、福岡ダンスフリンジフェスティバル、韓国 NDA International Festival 等で振付作品を発表。YDC2017 コンペティションⅡ奨励賞受賞。



④ みゝず

「socket」

振付・出演：みゝず (菊池 航・高野裕子)

菊池航と高野裕子が 2018 年に結成。共にダンサー、振付家。呼吸を感じ、互いの間に生まれる行為や言葉のない対話を重ね、晒し、踊りとしていく。これまで京都、神戸、深野(奈良県宇陀市)、浜松、東京などで屋内外でのパフォーマンスを行う。又、普段の稽古を公開し、本番と稽古の「間」を見つめる企画「みゝずの公開稽古」なども継続開催している。

会場・お問合せ：神戸アートビレッジセンター（指定管理者：公益財団法人 神戸市民文化振興財団） 担当 竹下・野澤
 〒652-0811 神戸市兵庫区新開地 5-3-14 TEL 078-512-5500 FAX 078-512-5356

※取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。

スタッフ

舞台監督：下村唯

照明：三浦あさ子

音響：井上至

チラシデザイン：ヨシ中谷・片山さあ (アシタノシカク)

チラシ撮影：寺田智也 (3S)

記録撮影：岩本順平

制作：山本和馬、いはらみく

主催：「ダンスの天地」実行委員会

共催：神戸アートビレッジセンター（指定管理者：公益財団法人神戸市民文化振興財団）

協力：NPO 法人 DANCE BOX

アフターパーティー開催決定！

9/8(日)17:15 より、KAVC 1F にてアフターパーティーを開催！作品を着に出演者・観客・批評家入り混じって飲んで食べて語り合しましょう！

(参加費：1,000 円/軽食&ワンドリンク付/当日申込)

公演批評 & 出演者インタビューを公開します！

公演の後日、アーカイブ HP、批評集にて批評家による公演批評を公開します。公演・作品をその場限りのものにせず、批評という切り口からもダンスの自明性を問います。

竹田真理 (ダンス批評)

関西拠点のダンス批評家。毎日新聞大阪本社版ほかでコンテンポラリーダンスを中心に記事や舞台評を執筆している。

岡元ひかる (ダンス研究)

神戸大学大学院にて舞踊研究を行う。これまで WEB マガジン DANCECUBE、NPO 法人 DANCE BOX のアーカイブなどで批評を執筆。実践家としての活動経験を生かした研究・批評を目指している。